

当院における大腿骨頸部骨折地域連携パスの 運用状況と退院転帰先による在院・術後日数の検討 (15-06)

1. 研究の背景

当院では金沢北部地区大腿骨頸部骨折地域連携パスの運用が開始されて 4 年が経過した。地域連携パスは在院日数の短縮が見込まれ、回復期病院を持つ近隣病院と円滑な連携を行うために地域連携パスの運用を行ってきた。運用率は約 20%となり、連携が図れている症例がある一方で、ここ数年で介護を取り巻く環境の変化もあり、退院転帰先によっては地域連携パス対象者以外にも在院日数が短い例が散見されている。そこで、当院の大腿骨頸部骨折患者を対象に、地域連携パスの効果と退院転帰先によって差異があるかを検討することとした。

2. 研究の目的

リハビリテーションを提供する上、退院調整の目安を考慮するため、大腿骨頸部骨折患者の地域連携パスの適用者と非適用者の在院日数と転帰先による在院日数の差異を明らかにすることとした。

3. 研究の詳細

(1)研究の方法

平成 23 年 7 月～平成 27 年 3 月当院に入院した大腿骨頸部骨折受傷し、回復期・介護施設へ転院した患者、または自宅退院した患者を対象とし、地域連携パス適用の有無と退院転帰先別に、在院日数、術後日数を集計し、有意差の有無を解析する。

(2)倫理的配慮

倫理的配慮に関してはヘルシンキ宣言に則り、研究実施に係るデータ類を取り扱う際は、被験者の秘密保護に十分配慮する。研究結果を公表する際は、被験者を特定できるデータを含まないようにする。データは研究実施者が厳重に管理する。また、本研究で使用されたデータは研究終了後を以って速やかに削除する。

4. 目標症例数と研究期間

(1)目標症例数：110 例(パス適用群 30 例 パス非適用群 80 例)

(2)研究期間：2015 年 11 月 1 日～2016 年 2 月 26 日

5. 研究責任者連絡先

研究責任者 理学療法士 成宮久詞

研究分担者 医師 滝野哲也

看護師 黒田和美

理学療法士 山崎隆幸

作業療法士 宮腰真

TEL 076-252-2200(内線 2262)